

## 資料

### フレール・ベルギー国立銀行総裁の演説

ベルギー国立銀行総裁 Maurice Frère 氏は、2月25日開催の同行年次株主総会で演説を行い、中央銀行の機能、独立性、義務、責任について自己の所信をのべたが、これはその概要であり、国際決済銀行 Press Review より訳出した。なお同氏は、2、3か月後に停年により辞任するはずである。

#### 1. 国立銀行の任務

国立銀行組織法を修正した1948年7月28日の法律は、発券銀行としての国立銀行が通貨を管理し、短期信用に対する全面的統制を実施し、さらに外国為替制度において、また国際支払協定の実施について、あるいはこれらの協定において金融面に影響を及ぼすような誓約が国立銀行により行われるとすれば、その協定の締結に際してもそれぞれ重要な役割を果たすべきことを規定している。

通貨管理の任務を明確に規定したことは、国立銀行が国内における信用供与を健全なものとし、また国際収支の均衡維持を図ることによつて技術的に通貨の安定を擁護すべきものであることをつきりさせるためであつた。通貨安定の擁護者としてデリケートな機能を果たす上での国立銀行の役割は、時には積極的であり、時には助言的である。金融・経済問題は、その重要性のいかに問わず、また大蔵省、銀行、公的金融機関のいずれに関する問題であるにせよ、あるいはまた通貨の将来という観点から特に注目すべき問題であるにせよ、すべて何らかの形で結局は国立銀行の関心事となるものである。

#### 2. 国立銀行の独立性

国立銀行の決定と勧告の目的は、均衡を破らないことではなければならない。これに関して最も重要なことは、これらの決定や勧告が社会の利益以

外は他を顧みず完全な客観性をもつて明確に説明され、また国立銀行の活動が政治的な配慮や特殊な利害関係によつて妨げられるようなことがあつてはならないということである。

このため国立銀行が広範な独立性を享受すべきであるということは、国立銀行の設立を規定した1850年5月5日の法律の立法趣旨においてはじめて主張され、その後しばしば再確認されているが、最近では1948年の法律の立法趣旨においても次のように述べられている。

「経済を円滑に発展させるためには、国立銀行の行う金融調整が柔軟性を有していなければならない。したがつて、政府は、国立銀行が行政権から独立して存在することに重要な意義を認めている。換言すれば、政府は国立銀行に対し公権力に関する限り特権を行使するが、同時に一方において……国立銀行創始者たる Frère-Orban 氏の表現を借りれば……《社会的利益に対する判断の相違によつて犠牲にされることを許されない十分な独立と行動の自由》を残しておかねばならない。」

1937年に種々の兼職禁止規定を定め、1948年以来国立銀行資本への政府の参加を規定することによつて、議会は民間の利害関係に対し国立銀行の独立性の確保に努力した。

これら両者からの独立が必要な理由は全く明白である。国立銀行定款には、その厳格な適用により、場合によつてはあるいは政府を制肘し、ある

いは民間の利益に影響を与えるような条項が含まれている。

通貨の安定を維持することは、国民経済の繁栄と社会水準の向上のために根本的に重要なことであるが、政治・経済の機構ないし政府の人気とりの意図としばしば衝突した。したがって、政府から独立した機関がその権限の範囲内で、通貨安定のための措置に対し責任をとりうることを望ましいのである。

しかしながら中央銀行の独立性は、いかなる種類のものであるにせよ、中央銀行と政府との間に何らかの対立があることを意味するものと考えられてはならない。むしろ逆に国立銀行は政府にとって信用問題についての助言者たるべきが自然であり、また政府と十分な協力を行うことは国立銀行の義務でもある。一方、中央銀行と公私の金融機関ないしは民間経済全体との間にいかなる対立もあつてはならない。

### 3. 国立銀行指導者の資格と能力

国立銀行がその多種多様な任務を遂行しうるためには、単に経済理論のみならず、国民経済・国際経済の機構にも通暁した有能な人々の奉仕に頼らねばならない。

しかも能力は経験によつて補足されねばならない。経済学が与えられた環境において、通貨の安定を維持するため従うべき最良の法則、採るべき最良の方策を教えるものであることは事実であるが、実際問題としては、望ましい成果をあげるために、時には効果はさほど大きくないことが明らかであつても、実行容易な次善の手段に訴えざるをえないこともある。

事実、成功を収めるためには、その採るべき手段により招来されるあらゆる政治的・社会的影響を考慮しなければならない。それゆえ、中央銀行の業

務は、科学というよりむしろ技術に近い感がある。

中央銀行の首脳部は、また——これが最も重要であると私はいいたいのであるが——性格上ある長所をもつていなければならない。すなわち果斷、先見、忠実、ならびに慎重がこれである。

独立した機関である中央銀行の運営を託されている銀行首脳部は、かれら自身政党からのみならず、民間の部分的な利害関係からも独立していなければならない。首脳部の決定は事実の十分な認識なくして早急に行なわれてはならないし、慎重に秤量され、それによつて生ずるあらゆる結果について十分な検討がなされねばならない。しかしながら一旦決定されたならば、反対のいかにかわからず、それを断乎として実施しなければならない。事実、予見しえない反響に対し、それに立ち向う勇氣をなくして、当初の態度をひるがえすことほど当局の權威をはなはだしくそこなうものはない。機関の權威ということとは、その任にあたる人が常に関係者のすべてに対して忠実でなければならないことを意味するものである。これは信賴を博すための不可欠の要件であり、中央銀行に対する絶対的な信賴は最も重要なものである。忠実ということは理事機関の構成員相互間においても、また理事会と政府委員との間係においても等しく重要である。一度決定が合議で行なわれたならば、その機関の構成員のすべてが、等しく全精力を傾注してこれを施行しなくてはならない。また中央銀行が能率的に活動するためには、常に慎重に行動するため努力しなければならない。中央銀行の指導者もまた慎み深くあらゆる自己宣伝を差し控え、自己のためにはいかなる利益をも求めてはならない。中央銀行の政府に対する助言の慎重さが大であればあるほど、その比重はいよいよ高まり、助言に従う機会も多くなる。

総裁が経済・金融政策に関する意見を公にしう

るのは、特殊な場合においてのみであり、通常はその職務の範囲内で、すなわち国立銀行年報や年次株主総会の演説などの機会になさるべきである。

#### 4. 国立銀行指導者の任務

総裁の任にあること12年以上にわたるが、中央銀行運営の衝にある人々の任務がいかに感謝されることの少ないかを教えられた。

中央銀行の指導者は、インフレーションや通貨操作に基く過度の物価騰貴が悲劇的影響を及ぼすものであることを熟知しており、またベルギー通貨の長年にわたる健全性と安定は僥倖によるものでなく、冷徹なかつ不断の努力の結果であることも知っている。また国民経済の競争力と高度の雇用水準の維持は、結局通貨の安定確保に依存することもよく知っている。

この理由から中央銀行当局は景気を行過ぎを常に警戒し、色々な形で国民経済に浸透するインフレを防止するために努力しなければならない。通貨安定の技術に精通しており、かつその擁護者である中央銀行当局は、国民経済を他日金融引締めか、またはデフレの苦難の道かのいずれかを選ばざるをえない立場に直面させないよう常に考慮しなければならない。中央銀行当局がインフレと戦わねばならないのはデフレを避けるためでもある。

中央銀行当局の任務は、経済・金融問題が複雑であるためなかなか困難である。その結果、一般の人々や国家の指導者にさえもしばしばみられることであるが、ある手段や勧告が社会全体の利益という大局的な観点からみて望ましいものであつても、各自の利益や意見に反するためにこれについて理解に困難を感ずることがしばしばである。

#### 5. 最近の金融財政上の問題点

国立銀行年報において強調したように、通貨の

安定を維持するという使命の遂行は、国立銀行のみが負うのではなく、この点常に政府との緊密な連繋が必要である。政府の義務は何時いかなる場合にも、中央銀行をして自由に技術的手段をとらしめうるに必要な条件をつくり出すことである。

ベルギー国立銀行は、賦払信用取引を規制する条件を定期的に定める上に積極的な役割を果たしうることを望んでいる。なかんずく望まれるのは、適切な財政政策などにより、金利が需給関係によつて現在よりも大幅に変動しうるようなマネーマーケット機構に必要な条件、ならびに市場情勢に応じて公開市場操作を行いうるような条件をつくることである。最後に支払準備制度は、通貨改革を成功させるため戦後直ちに実施されたけれども、今日では、必ずしも現実の要請に適応しなくなつているので、その改正が望ましい。

現在の金融問題に対する鍵は結局のところ財政政策にある。ある時期に財政投資計画を立てることは、不況防止の必要からしても明らかに有益であり、場合によつては不可欠でさえあろう。しかし現在のような繁栄期にこそ、他日失業問題が再び発生した場合に備えてリザーブを蓄積するため、このような投資計画の実施にあえて抑制を加えるだけの勇気が必要である。経験の示すところによれば、われわれの必要、欲望ないし願望の満足は、われわれの処分しうる手段によつて常に制約されている。科学と技術の進歩は日ごとにこの限界を押しひろげているが、しかし欲望や願望は一般にこれを充足する手段よりもはるかに早く増大する。

支配するためには予見せよといわれるが、これに選択せよということをつけ加えるべきである。計画の作成に当つては、達成すべき諸目的の間に優先順序を確立し、これにより必要度の少ないものを後回しにしたり、繰り延べたり、場合によつ

ては全く廃止したりすることが必要である。特定目的のための国家資金の使用がいかに望ましくとも、それは絶対的のものではない。望ましいとされる目的に対しこれを充す手段に限りがあるという事実は、一定用途への支出の承認は直ちに他の用途への支出削減という選択を必要とするということを意味する。これは、あらゆる支出要請を満し、しかもその勘定書を引受ける納税者の不満は買いたくないという多くの政治家にとっては、不愉快ではあろうが明白な真実である。

## 6. 金融政策の困難性

経済政策は常にあらゆる問題を全般的に検討することにより実施されなければならない。ある問題、たとえばある生産物の価格の騰落を防ぎ、労働者の特定グループに仕事を与え、あるいは社会の特定階層の生活水準を上げるなどの問題を解決するために有効と考えられる措置が、単に他の生産物の価格の騰落を招き、また仕事を与えられた人々より多くの失業者が生じたり、あるいはその措置により、利益をうける人々より多くの人を苦しめることになることが後になつて明らかになることがしばしばある。

しかしながら、ある理由のために事実上介入が要求される場合があるが、その場合必要なことは、予想されるあらゆる影響を勘案した上で決定を下さねばならないことである。いずれにしても、国家の経済上ならびに金融上の健全性を維持するためには、常に予算支出のみならず、あらゆる種類の財政支出は直接間接をとわず、常に増税や借入れの増大による過大な圧力を加えずに政府の財源の範囲内でまかなわれなければならない。あまり多くのことを、またあまりにも早急に達成しようとするならば、利率の上昇を招来し、悲惨なイン

フレを招くにすぎないであろう。

ベルギー政府が、租税収入の急速な増大にもかかわらず、過去多年にわたる借入れに今後も依存することは、これまでの国家に対する信頼の念をそこなうものである。もしもベルギーがその権威と信用を守ろうとするならば、必要な措置をとることにより、あらゆる疑いをはらすために努力しなければならない。特に肝要なことは、財政総支出と総収入との差を大幅に減少せしめることであり、国庫の余裕が景気の後退ないしは早晚予想される税収入の減少に備えることのできるように、すみやかに再建されなければならない。

しかしながら、ベルギーの当面する困難は他の諸国のそれに比すれば小さいものである。またこれら困難を解決するために必要な諸制限や犠牲は、戦後ベルギー通貨の救済のため、また国の信用の復興のため堪え忍んできたものに比べれば、ほとんど問題とするに足りない。

この努力によりベルギーは、通貨の安定が決して僥倖の所産でないことを証明した。いかなる通貨上の諸困難も単に運が悪い結果ではない。それは常にその結果が現われるずつと以前に犯した失敗や誤ちに基くものである。これらの過誤や失敗というものは最初はほとんど痕跡を残さない。なんとすれば、経済は自然に調整が行われながら発展するからである。

しかしこれらの過誤が繰り返され、長びくならば、経済の調整機構はゆがめられ、深刻な不均衡が表面化する日はやがて到来するだろう。これを防ぐためには、常にあらゆる角度から考慮を払わねばならない。というのは、後になつて必要な調整を行うためには一層の困難を伴うことになるからである。

(訳注) 見出しは便宜上訳者が挿入したものである。